

イノベーションシステム整備事業
先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム
「翻訳後修飾プロテオミクス医療研究拠点の形成」
第54回 プロテオーム医療創薬研究会

【実施日】 2014年5月16日(金) 16:00~17:00

【会場】 横浜市立大学 先端医科学研究棟 5階会議室

【来場者】 約 31名

【内容】

演題：「バイオバンクの取組みと今後の血液バンク事業に向けて」

講師：バイオバンク室長 寺内 康夫 先生（内分泌・糖尿病内科学 教授）
病理バンク副室長 大橋 健一 先生（病態病理学 教授）

発表要旨： 先端医科学研究センターのバイオバンク室は平成19年4月より事業を開始した。トランスレーショナルリサーチ体制の基盤として、附属病院の患者の方々の同意を得て提供された組織検体や診療情報を保管・管理している。現在までに検体数は、10,905 バイアル（2,686 種）となった。大橋教授は、バイオバンク事業の意義、検体収集の方法、研究への利用方法について解説した。また、平成26年度より開始することになった血液の採取と提供を血液バンク事業の意義、血液検体の収集方法、そして、利用方法について寺内教授から説明があった。多くの研究者が聴講したが、これはこの種の事業に対する関心が高いことを示している。バイオバンクは、イノベーションシステム整備事業においても極めて重要な役割を担っている。今後も、バイオバンクの充実に協力していく必要がある。